

# 福島第一原子力発電所現地確認報告書

## 1 確認日

令和8年4月21日（火）

## 2 確認箇所

- ・使用済燃料乾式キャスク仮保管設備（図1）
- ・JAEA第2棟建設予定地（図1）

## 3 確認項目

- （1）使用済燃料乾式キャスク仮保管設備増設工事の状況
- （2）JAEA第2棟建設工事の状況

## 4 確認結果の概要

### （1）使用済燃料乾式キャスク仮保管設備増設工事の状況

東京電力では、各原子炉建屋の使用済燃料プールで保管している使用済燃料をその安定管理を図るため、共用プールで集中管理することとしており、各原子炉建屋の使用済燃料プールから共用プールへの移送を進めている。

共用プールの保管容量確保に向け、十分に冷却が進んだ使用済燃料を乾式キャスク（1基あたり使用済燃料を69体収納可能）に装填し、構内の使用済燃料乾式キャスク仮保管設備（以下「仮保管設備」という。）に移送する計画である。しかし、現在の仮保管設備では、想定する保管容量を満たさないため、令和5年2月に保管容量を30基分増設する工事が開始された。

なお、現状の仮保管設備の保管容量は、上限（65基）に達しており、増設される箇所の運用は令和8年10月頃を見込んでいる。

今回は仮保管設備の増設に係る工事の進捗状況等を確認した。（前回確認：令和8年3月4日）

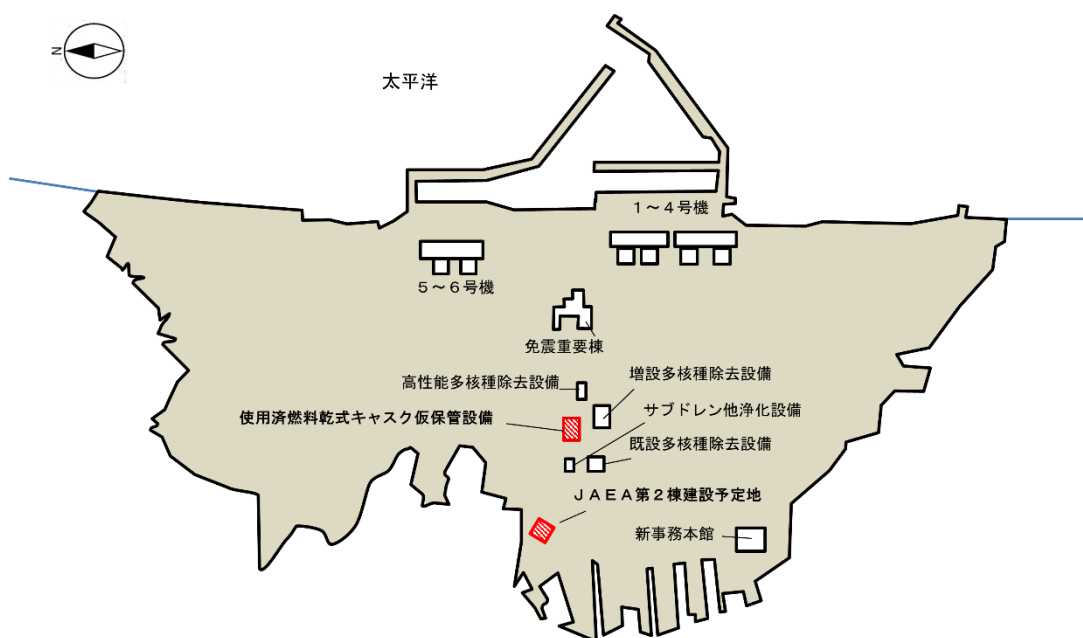
- ・増設箇所の東側にL字擁壁が整備されており、既設の仮保管設備と底面の高さを統一するため、盛り土と土留めの施工が行われていた。（写真1）
- ・乾式キャスクの移動に使用する門型クレーンのレールの整備が進んでいた。（写真2）
- ・増設した設備の基礎上に乾式キャスクを設置するための架台が整備されていた。（写真3）
- ・架台の周辺にはキャスクを覆うコンクリートモジュールを設置するため、基礎上にアンカーボルトが整備されていた。（写真4）
- ・既設の仮保管設備エリアにおいてもキャスクを増設する計画があり、エリアの西側の基礎部分にも新たに架台等が整備されていた。（写真5）
- ・現場では、確認した範囲において、整備した基礎のひび割れや盛り土の崩れ等、異常は見られなかった。

## (2) JAEA第2棟建設工事の状況

日本原子力研究開発機構（以下「JAEA」という。）は、事故により発生した燃料デブリ等の性状把握に資する分析を行う施設として、福島第一原子力発電所構内に放射性物質分析・研究施設第2棟（以下「JAEA第2棟」という。）の建設を行うこととし、令和7年3月31日から建設工事に着手している。県では当該工事の進捗状況を継続的に確認しており、本日も、JAEA第2棟の建築工事に係る現地確認を実施した。（前回確認：[令和8年3月16日](#)）

- ・2階床設置の準備作業とコンクリートセル\*周辺へのコンクリートの打設が進められていた。2階床の一部でコンクリートが打設されており、下層にはコンクリートが固まるまで保護するための足場が組まれていた。（写真6）
- ・地下階には、建物内の換気に使用するフィルタユニットと廃液を貯蔵するタンクが据付されていた。（写真7）
- ・建設現場では、段差の注意に係る掲示や安全帯の使用を義務付ける掲示されており、作業における安全対策が講じられていた。（写真8）

※放射能レベルの高い物質を扱うために、厚いコンクリート壁で遮へいされた部屋のこと



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1 - 1)  
増設エリア内の全景



(写真 1 - 2)  
エリア内の盛り土と土留め施工状況



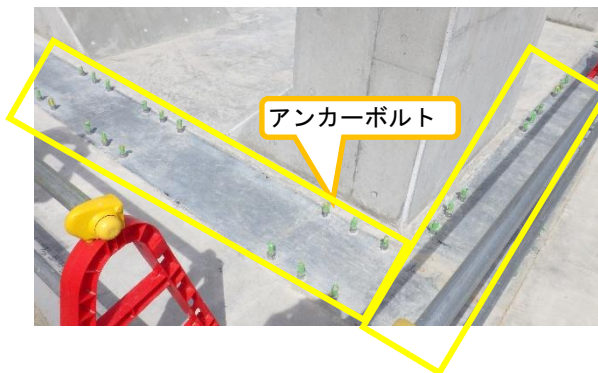
(写真 2 - 1)  
クレーンのレール溝の設置状況（令和 8 年 3 月 1 6 日の例）



(写真 2 - 2)  
クレーンのレール設置状況（令和 8 年 4 月 2 1 日の例）



(写真 3)  
キャスクを設置する架台の整備状況



(写真 4)  
アンカーボルトの整備状況



(写真5)  
既設の仮保管設備エリアに整備された架台の状況



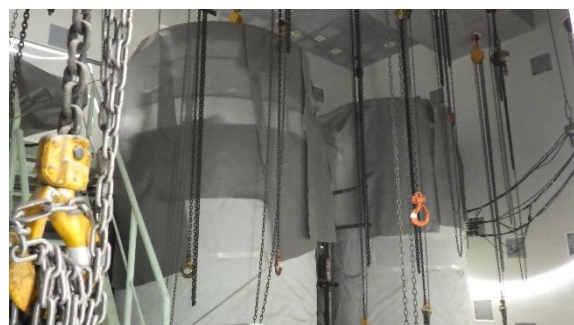
(写真6-1)  
コンクリート打設の状況



(写真6-2)  
足場の整備状況



(写真7-1)  
フィルタユニットの設置状況



(写真7-2)  
廃液タンクの設置状況



(写真 8 - 1)  
現場の安全対策に係る掲示の例①



(写真 8 - 2)  
現場の安全対策に係る掲示の例②

## 5 プラント関連パラメータ等確認

確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。